

さいたま市公民館運営審議会第8回会議 議事録

1 開催日時

令和7年10月28日（火） 14時00分から15時40分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：10名〉

- ① 加藤 美幸 委員長
- ② 磯田 三津子 副委員長
- ③ 太田 祐子 委員
- ④ 大塚 晶子 委員
- ⑤ 小林 玲子 委員
- ⑥ 小森谷 由紀江 委員
- ⑦ 佐藤 一子 委員
- ⑧ 白石 徳一郎 委員
- ⑨ 富田 敏弘 委員
- ⑩ 西形 恵美子 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- | | |
|----------------|--------|
| ① 西 区 指扇公民館長 | 菅野 剛史 |
| ② 北 区 大砂土公民館長 | 武笠 充裕 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 細井 規夫 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 茂木 深雪 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 貫井 直美 |
| ⑥ 桜 区 田島公民館長 | 舟腰 祐子 |
| ⑦ 浦和区 岸町公民館長 | 河原塚 政行 |
| ⑧ 南 区 文蔵公民館長 | 桑原 健司 |
| ⑨ 緑 区 大古里公民館長 | 酒井 浩志 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 杉本 達洋
- ② 副館長 大城 冬樹
- ③ 事業・企画係主査 三好 七月
- ④ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑤ 事業・企画係社会教育指導員 成尾 千里
- ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 田山 基子

4 欠席者

〈委員：2名〉

- ① 島田 正次 委員
- ② 山口 哲生 委員

〈拠点公民館職員：1名〉

- ① 岩槻区 岩槻本丸公民館長 石関 達

5 事務局からの報告、説明等

- ・前回会議録について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第8回会議 次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第8回会議 席次表
- (3) さいたま市公民館運営審議会第7回会議 議事録
- (4) 【資料1】さいたま市公民館ビジョンに基づく取組評価について
- (5) 【資料2】第13期さいたま市公民館運営審議会 審議事項について（案）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

委員の半数以上が出席しているため成立

10 内容

- ・前回会議録について報告を行った。

議題1 公民館ビジョンに基づく取組評価の総括について

加藤委員長	様式2に書ききれなかったこともあると思うので、指扇公民館長、鈴谷公民館長に補足などがあったら伺いたい。
菅野館長（指扇公民館）	今回評価いただいた取組も含め、地域の方の協力や知識・知恵等いただきながら取り組んできた。公民館として、地域の方とのコミュニケーション、コミュニティづくりに取り組んでいくことは重要だと考えている。今後もいただいたご意見等を参考に職員とともに取組を進めてまいりたい。
貫井館長（鈴谷公民館）	与野地域は室町・江戸時代のころから市場の町でもあったため、歴史的な素材や建物、資料も結構残っており、それらをもとに、地域の教育施設・団体とつながりを持つきっかけになった。取組の中で中学生と作成した動画は、来年4月の与野本町公民館のリニューアルオープン後、ロビーや講座で活用したいと考えて

	いる。休館中は職員4名が積極的に地域の方々との距離が離れないよう、区役所、コミュニティセンター、小学校、中学校、高校など会場を工夫し、苦労して事業を展開した。4月からは今までの経験を生かして、新しい環境で事業展開していくことを期待している。
加藤委員長	このような評価内容が蓄積されていくと、公民館の大きな力になっていくのではないか。
白石委員	中学生は現在の中学生から内申書が変わり、取り組んだボランティア活動を内申書に記載できるようになる。高校生も大学入試の際に、大学によってはどのようなボランティアをして、何を学んだかなどを、志願書等に記載できる場合がある。公民館から中高生に向けてボランティアを募集すると、予想以上にボランティアが集まるのではないか。つながりづくり、地域づくりにもなると考える。

・評価内容の展開について

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市民に周知をするためホームページへの公開を考えている（様式1、2及びプレゼンテーション資料）。 評価結果を各公民館に送付し内容を共有する。 公民館職員を対象にした研修の中で植水公民館と与野本町公民館の取組について事例発表を行うことを考えている。取組について詳しく説明を行うとともに委員からいただいた評価の視点や、活用できるポイントを共有することで、他館にも良い取組が波及していくように働きかけを行いたい。
加藤委員長	様式2が私たちの総意なので、様式1は掲載しなくてもよいのではないか。様式1に意見全てを文章化してはいないという方もいると思う。様式2とプレゼンテーション資料、取組シートをセットにして掲載すると分かりやすいと思う。
小林委員	ホームページは見やすさが重要であるため、個別の委員の意見である様式1は掲載しなくてもよいと思う。必要であれば、別のページに掲載し、リンクをつけて案内するという形にするとよいのではないか。それぞれの拠点公民館長からの裏話などを載せると見てもらいやすいと思う。
事務局	ホームページに載せる目的は見てもらうことであるため、資料が見やすい掲載の仕方となるよう、ご意見を参考に工夫したい。

・評価の振り返りについて

大塚委員	公民館が地域と密接に関係があり、地域を盛り上げて学びを深めていると知ことができて、大変勉強になった。
富田委員	さいたま市の公民館が頑張っていて、地域や子どもたちのためになっていると十分わかり、感激している。
太田委員	評価を実施する際は、評価対象館の公民館長が出席できるときに開催した方がよい。7月は、夏休み子ども公民館の講座の時期で本当に忙しいと思う。
小森谷委員	事前に10区の中で熟慮された公民館のいろいろな取組をデータで送っていただいたが、どの公民館も公民館ビジョンを実現する取組だったので、相当悩み2つ選んだ。時間があればやはり、全ての公民館の取組の話を聞きたかった。

佐藤委員	さいたま市の公民館の具体的な姿について認識を深めることができ、とても充実した審議会だった。さいたま市は稀に見る広域で、首都圏に隣接し首都圏の一角をなしているので地域性が見えにくく、また、公民館は便利に使える場所として認識されている一方で、地域に根差して高齢者や若者などその地区の様々な住民が関わりながら、一緒につくっている学びの場であることや、創造的・実践的な側面というのはとても見えにくい。歩いていけるところに、これだけの公民館が地区ごとに整っている大都市は珍しく、今回のテーマは、地域に根差した、それぞれの地区ごとにある公民館活動の独自性や、つながりづくりを可視化する意味で、とても貴重な報告を出すことができたのではないか。また、全国的に公民館は高齢者の施設と思われがちだが、さいたま市の場合は、それぞれの地域の努力で子どもや若者も関わっている。いろいろな階層が混じり合い学び合い、施設としてのよさ、さいたま市なりのよさを表現できる報告になった。大都市の足元が見えない生活地域ではなく、その地域の持つ歴史性や人のつながりやその地域なりの文化を、住民とともに共通認識できるような議論だったのではないかと感じている。
加藤委員長	プレゼンをしていただき、直接話を聞いて、取組シートだけを見ただけではわからなかつたことまで本当によくわかった。公民館、さいたま市もこんなに頑張っているよと、PR していかなければいけないと思った。
磯田副委員長	評価シートは、それぞれの公民館のよいところ、創造的な部分を盛り込んで、それを他に伝えることができるようなシートに仕上がったのではないか。競争ではなくて、協働して、全体がよくなっていくシートになったと思う。学びが公民館を通して、子どもたち、地域の親御さんたちに向けて、広がりがあるということがわかつたということも非常に重要だと思う。また、公民館の中には、世代間の連携があり、異年齢の関わりを持つことで、地域社会、助け合い、価値観や歴史などを受け継いでいくことができる場所にもなっているのではないかと感じた。
加藤委員長	時間があれば、もっと他の公民館も応援するようにしたかった。上手くいっていないが頑張っている、どうしたらよいのだろうという課題を出していただければ、委員も「1 up への道」や「皆で活かせるポイント」など、一緒に考えていくのではないか。地域の方や、私たちも、知識や知恵を提供できるので、相談いただく場があつてもよかつたのではないかと思ったところもある。もっと気軽な形でいつでも相談に乗れるような機会をつくっていくとよいのではないかと感じた。

・次期の審議内容について

加藤委員長	生涯学習ビジョンと公民館ビジョンと図書館ビジョンと、3つが一体化して、推進していくような図があったと思う。その評価や、今後、公民館ビジョンを新しくしていくときに、どのようになっているか知りたい。
事務局	3つのビジョンは、それぞれが令和10年度までが対象期間となっており、生涯学習ビジョンも今後振り返りを行う予定である。それぞれ連携し合いながら振り返りを行ったうえで、次期ビジョンにつなげていくことを想定している。

佐藤委員	今回の審議会では、あまり ICT については議論ができなかった。コロナ禍の時期に、AI を活用した新しい講座の組み方を工夫する中で、例えば中学や高校の放送部など、地元の若者の ICT の力を公民館に活用してオンラインの講座を開設するような事例も、他の地域でいくつか見えた。若者と高齢者では、コミュニケーション方法にギャップがあるが、これから公民館に若者の力を活用していく上で、コミュニケーションの方法として ICT を積極的に評価しながら、どのように人づくりにつなげていくのか。ここに書かれている課題というのは、世代間交流や、新たな表現方法、学校の部活と公民館との連携などの可能性を含んでいると思うので、その辺りの問題意識をどのようにお持ちなのか伺いたい。
事務局	公民館ビジョンはコロナ禍に作られたので、ICT に関する課題意識も強く、例えば、オンライン講座を実施するにもオンラインの見方がわからない人がいる、そういう情報格差をなくそうという課題として掲載されている。対面、ハイブリッド、オンデマンドなど、講座によって、どのような形が一番望ましいのかを検討し、次期公民館ビジョンの中でも取り組んでいきたい。
白石委員	振り返りの主な観点のところで、人づくり・つながりづくり・地域づくり、これを公民館の利用者や講座受講者、または地域の方が、どう評価しているのかを知らなければならないと感じる。今後は、ボランティアに参加した人の声や、地域の利用者、協力してくださった方々の声も含めて振り返っていくことが必要なのではないか。例えば講座の参加率、講座に参加した方々の満足度、ボランティアの応募者人数など、数値を見ることで客観的に評価もできると思う。
事務局	振り返りの時期に合わせ、アンケート項目を追加することができるかなどを考えている。夏休み子ども公民館でも、どのような講座を希望しているかなど、アンケートを取っており、各現場に届いている声、実際に来ている方々のアンケートの内容はもちろん、ボランティアの集まっている状況や、現場の苦労などの声を取り入れて、評価につなげていければと考えている。
大塚委員	人づくりという点で自分は悩んでいる。講座を行うにあたり、講師の先生は、知っている方や他館で講師をされている人にお願いすることが多い。地域の中から、講師を引き受けってくれる人が出てくる方法はないか、募集などできないか。きっと地域の中に、私たちは知らない新しいものを持つ人がたくさんいると思う。どうすれば、といった人が公民館につながっていくのかを考えている。

・総括

磯田副委員長	公民館には、地域社会をつくる、或いはその歴史を継承していくような役割があることに改めて気づいた。また、公民館のよいところを地域や市民が共有して、皆が主体的に地域づくりや歴史継承に携わっていけるような公民館になっていけたらよいなと思いながら、いろいろと勉強させていただけたと感じている。
加藤委員長	3期にわたり審議会に参加させていただき、今期は評価というお題をいただいた中で、2年間じっくり、シートから、項目から検討して、皆さん様々な立場からの意見をいただき、最終的に評価シートが完成したと思う。ぜひそれぞれの公民館が、それぞれ成長していくような評価になっていればよいなと思っている。

11 生涯学習総合センター館長挨拶

12 閉会